



2019年2月5日  
東日本旅客鉄道株式会社  
JR東日本テクノロジー株式会社

## 「JR東日本 Technical Intern Training」を始動します！

～アジアを中心とした国際鉄道人材の育成について～

- JR東日本グループは、グループ経営ビジョン「変革2027」でESG経営の一環として「国際鉄道人材の育成」を掲げています。
- これを具現化する施策として、2019年4月1日に「JR東日本 Technical Intern Training」を始動します。第一弾としてベトナムから11名の実習生を受け入れ、車両メンテナンス業務の実習を行います。実習は、東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区、代表取締役社長：深澤 祐二）及びJR東日本テクノロジー株式会社（東京都新宿区、代表取締役社長：佐藤 裕）が共同して大宮総合車両センター（埼玉県さいたま市）にて実施します。
- 国際的な鉄道人材の育成を通じて日本とベトナムとの友好関係を構築するとともに、今後は実習分野や受け入れ対象国を拡大しながら、アジア地域の持続的な経済発展に貢献していきます。

### 1. 概要

#### （1）対象者

ベトナム鉄道から5名、ホーチミンの日本語学校（KAIZEN 吉田スクール）から6名、合計11名

#### （2）実施スキーム

団体監理型の技能実習制度を活用し、3年間の実習を計画しています。対象職種は、冷凍空気調和機器施工職種（冷房装置のメンテナンスを主たる業務とする職種）になります。実習生は当社と雇用契約を締結します。賃金、福利厚生は社員と同等とします。

#### （3）実習内容

鉄道車両の冷房装置メンテナンス業務を中心に、鉄道車両メンテナンス業務の実習を行います。

#### （4）スケジュール

実習生は日本語及び日本文化に関する事前講習を専門機関にて受講後、5月から実習を開始します。

### 2. 開講式について

4月1日に鉄道博物館（埼玉県さいたま市）にて開講式を実施いたします。（予定）



【冷房装置のメンテナンスの様子】



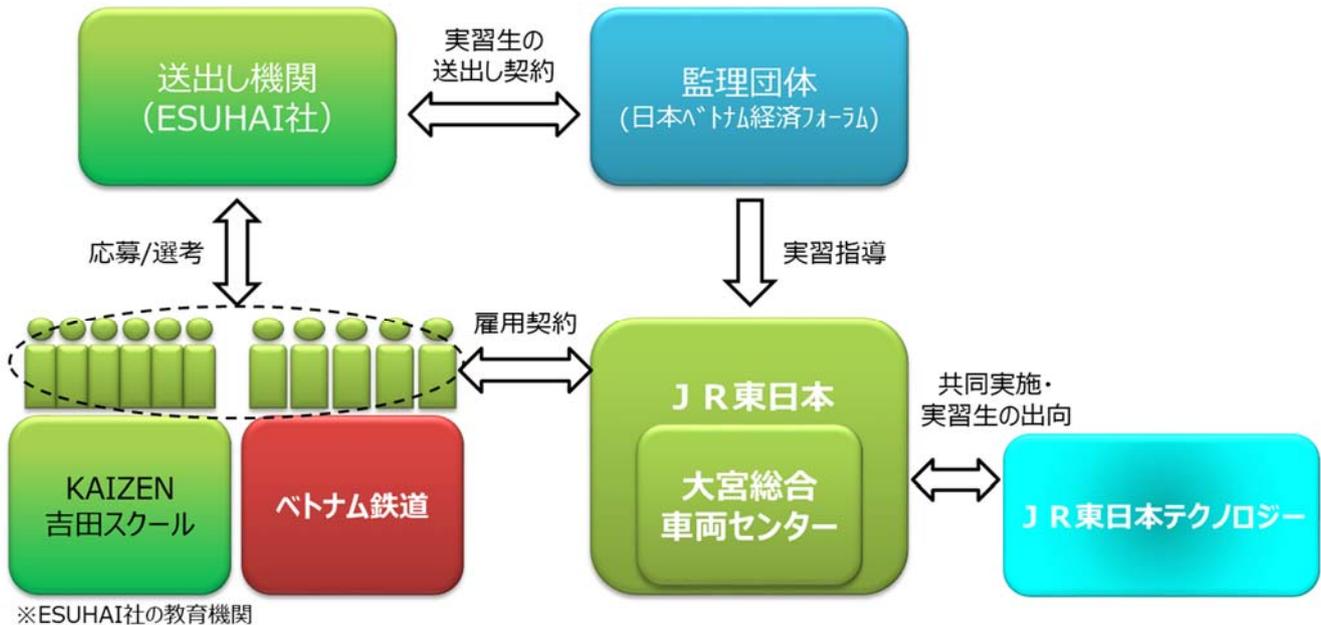
【鉄道車両のメンテナンスの様子】

## (参考)

### ■ ベトナム鉄道 (Vietnam Railways) について

ベトナム鉄道の歴史は、1881年にサイゴン (Saigon) ~ミトー (My Tho) 間に、長さ71kmの鉄道路線が建設されたことに始まります。ハノイからホーチミン・シティを結ぶ延長1,726kmの南北線を中心に、7幹線3,159kmの路線網を有します。当社が設立した公益財団法人東日本鉄道文化財団が実施する「JR East フェローシップ研修」には1995年以来、同社からの若手幹部候補生職員の派遣が続いています。

### ■ 今回の実施スキーム図



### ■ ESUHAI 社について

ESUHAI 社は2006年から日本企業向けに特化したベトナムの人材教育会社として活動しています。日本での実習・就労を希望するベトナムの若者に対し、自社が運営する学校であるKAIZEN 吉田スクールにおいて、日本語や日本での働き方・仕事文化などを約1年間教育します。また、技能実習修了生の帰国後は、ベトナム国内の日系企業への就職支援や更なるスキルアップ講座の提供等も行っています。

### ■ 日本ベトナム経済フォーラムについて

日本ベトナム経済フォーラムは、日本・ベトナム両国間の交流促進及び人材の育成・活用に向けて経済人及び有識者で設立された非営利の一般社団法人です。2018年7月に技能実習制度の監理団体としての許可を受けました。なお、当社の本施策が、同団体での監理団体業務の第1号案件となります。

## ■ 過去の当社における研修受入実績

JR 東日本は、国際協力機構（JICA）が実施する、各国鉄道事業者からの研修受入れを行っています。インド鉄道省職員やインド高速鉄道公社職員の本邦研修においては、当社の鉄道関連施設の視察や各種講義を行うことにより、新幹線を中心とした鉄道事業の技術的な支援を実施しています。

また、埼京線や南武線等で使用してきた 205 系の車両譲渡を契機として、インドネシア通勤鉄道会社（PT Kereta Commuter Indonesia）の社員を対象に、車両メンテナンスやサービス・ホスピタリティ等、様々な分野での技術支援等も実施しています。



【インドネシア通勤鉄道会社への本邦研修の様子】

## ■ 「JR East フェローシップ研修」について

公益財団法人東日本鉄道文化財団では、アジア諸国の鉄道の若手幹部候補生を対象に 1993 年度から研修を実施しています。「人間性豊かな鉄道文化と交通文化の醸成に寄与するために、鉄道を通じた国際理解及び国際交流を推進する」という財団理念に基づき、海外鉄道の人材を育成し、国境を越えた深い友好関係を築くことを目的としています。

日本文化に触れる機会や JR 東日本社員とのレクリエーション交流なども取り入れ、単なる技術習得にとどまらず、広く日本と日本文化を理解してもらうことを目指しています。

2018 年度は 7 カ国 11 名の鉄道職員が 2018 年 9 月 13 日～11 月 18 日まで約 2 か月の研修に参加しました。



【秋田総合車両センターにおける研修の様子】

### 【1993 年度～2018 年度研修生受入累計実績】

タイ国鉄	1993 年度～	44 名（1 名）
ベトナム鉄道	1995 年度～	45 名（1 名）
マレーシア鉄道	1995 年度～	39 名（3 名）
モンゴル・ウランバートル鉄道	1997 年度～	34 名（2 名）
インドネシア鉄道	2001 年度～	34 名（2 名）
ミャンマー国鉄	2014 年度～	7 名（1 名）
フィリピン国鉄	2016 年度～	4 名（1 名）
合計		207 名（11 名）

カッコ内は 2018 年度実績